

2011年1月吉日
ブラジル日本商工会議所
会頭 中山立夫

年頭の挨拶

清々しい新年、あけましておめでとうございます。

昨年に続き今年も会頭職を拝命致しました中山立夫です。今年もまた昨年同様に宜しくお願ひ申し上げます。

昨年は会議所70周年記念の年

昨年は当会議所が1940年5月29日に創設され、伯国における公益団体として認知されてから丁度70年の節目にあたり、改めて先人・先輩諸氏のご功績に敬意を表し、これを記録に残す為に、会議所の歴史上初めて500頁に及ぶ記録集を編纂しました。編纂にあたってご協力いただきました関係者皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

又、会議所70周年を機に、総務委員会・法律委員会を中心に、会員の有志、さらには外部の有識者も交えながら、定款や各種規則の修正案を作成、4ヶ月4回に亘っての常任理事会での審議を重ね、理事会・総会の承認を経て、定款や各種規則改正が実現致しました。

世界の注目高まるブラジル—高度成長到来とブラジルと史上初の女性大統領誕生—

世界経済は米・欧・日の先進国から中国を筆頭とするアジア、ブラジルを中心とするラ米新興国へのパワーシフトが進んでいます。中でもブラジルは2014年のワールドカップ、2016年のオリンピック開催に向けて、大規模な投資が行われており、高度経済成長時代が到来しました。そして本年1月1日にブラジルの歴史上初の女性大統領ジウマ・ロウセフ氏が誕生、国民向け就任演説で、前ルーラ政権を交えながら、基本政策の継承、保健・教育・治安分野を優先課題とし、特に貧困撲滅と全ての人に対する機会創出のために戦うことを力説、国民を拍手喝采の渦に巻き込み、順調なスタートを切りました。

今年の商工会議所活動—より強い官民連携への支援—

（日伯貿易投資促進合同委員会への参画）

2008年7月、日伯交流年（移民100周年）を機会に、日本の経済産業大臣として24年ぶりに甘利大臣が訪伯、日伯貿易投資促進合同委員会（日伯貿投委）が両国政府と民間を交えたハイレベル協議の場として設立されました。

この日伯貿投委は2009年2月以降、両国において6ヶ月毎に交互に開催され、第4回目は昨年11月に東京で開催、第5回目は今年5月ブラジルで開催の予定です。当会議所は日本経団連と共に第1回目からこの会合に参加、主にビジネス円滑化、具体的には移転価格税制、技術

移転、ビザ取得の改善等、日々の企業活動や投資の足枷になっている喫緊の課題について取り組んで参りました。

尚、第4回東京会合においては将来を展望、ワールドカップ、オリンピック開催に向けた投資機会や協力、新成長戦略、環境エネルギー、スマート・コミュニティー／2国間のオフセット・メカニズム、自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）等についても協議しました。

（日伯経済合同委員会について）

一方、当会議所のカウンターパートである日本経団連とブラジル全国工業連合会（CNI）が隔年1回の頻度で開催される日伯経済合同委員会にも積極的に参加、中長期の視点から、両国の人材、資源、技術、資金をお互いに活用し合いながら水平展開、重層的な関係構築に向けて、以下の様な数多くの分野と課題（※）について討議して参りました。

（※）経済的枠組み（投資協定やEPA／FTA）、エネルギー、天然資源、バイオ燃料、石油・ガス、太陽光、風力などの再生可能エネルギー、IT、航空機、バイオテクノロジー、地上デジタル放送、製品やサービスのイノベーションについての産学連携、投資促進と技術移転および地場産業の育成（自動車、電化製品）、ブラジル農業技術、日本市場におけるブラジル農産品の流通拡大、環境関連技術（アグロフォレストリー、アマゾン森林保護等）、日伯両国新しい協力関係の構築、第三国における共同プロジェクト（モザンビーク熱帯雨林の農業開発等）、ブラジルのインフラ整備（鉄道、道路、住宅・公共施設、倉庫・港湾等の物流、情報通信、電力等々）

（日伯貿投委と日伯経済合同委員会の同時開催）

日伯経済合同委員会は今年5月にブラジル・バイア州都サルバドールで開催される予定ですが、これに合わせて前述の政府主導による日伯貿投委も併行開催する運びになりました。両委員会の同時開催により、日伯経済関係や官民連携が一層強化されることを期待しております。

（より強い官民連携を目指して）

これから日の日伯経済関係を強化・推進していく為には、分野が非常に多種多様に及んでいること、米国・欧州・中国・韓国等の競合企業が強力な官民連携で取組んでいる状況より、日本もはや民間企業だけによる対応には限界が来ていると思います。特に高度な技術移転を伴う大型プロジェクト案件の投融資などは、政・官・民、三位一体の強い連携がなければ実現が難しいでしょう。日本がブラジルの要望に応え、両国お互いがWin-Winの関係を構築していくためには、従前以上に官と民が連携を強化、深化させていくべく、商工会議所として支援・協力して参りたいと思います。

最後に

世界経済が先進国から新興国へパワーシフトしている時代に、日本および多くの日本企業はアジア諸国を主たる戦略地域とされていますが、150万人の日系社会を擁し、百年を超える歴史の中で、営々築き上げた信頼関係のあるブラジルを真の戦略パートナーとして位置付けて

いただき、当商工会議所会員企業皆様と新たに進出される日系企業の皆様の一助となるべく、今まで以上に、各種お問い合わせやご相談事に応じ、ご支援致したく努力して参る所存です。皆様方の引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、末筆ながらご健康と益々のご活躍、ご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。